

## 【今週の注目疾患】

## 【梅毒】

梅毒の報告は2010年以降、増加を示しており、2016年には全国でおよそ4,500例が報告された。千葉県内でも2016年は140例の報告があり、近10年で最も多くの届出があったが、2017年は第21週までに51例が届け出られており、昨年同時期（第1～21週）の45例よりも多い報告数を認める。

近年の県内の梅毒届出症例における特徴を示す。2006年以降、2017年第21週までに合計586例の届出があり、男性は2011年から2015年まで毎年数例～十数例の増加を続けていたが、2016年は前年から約40例の大幅な増加がみられた。女性は2012年から増加傾向が確かなものとなり、2012年は5例だった届出が、2016年には49例の届出を認めた（図1）。届出に占める病型の内訳は男性では早期顕症Ⅰ期での届出が多くなっており、女性では早期顕症Ⅱ期での報告が多い（図2、3）。患者の年齢について、男性では2006年以降、患者年齢中央値に大きな変化はなく、2017年第1～21週までに届け出られた男性の患者年齢中央値は41歳（範囲：19-89歳）であった。女性はここ数年20歳代が年齢中央値となっており、2017年第1～21週までに届け出られた女性の患者年齢中央値は28歳（範囲：19-82歳）であった。10歳代においては、男性の14例に対し、女性は23例と女性の届出が多くなっている。推定感染原因・経路については2割弱が不明となっているが、その不明を除けばほとんどが性的接触によるものであり、男女とも性的接触（性交）のみならず、性的接触（経口）として届け出られた症例を一定数認めている（表）。推定感染原因・経路について明確なトレンドの変化といったことは確認されない。近年、無症候性および早期顕症梅毒患者の増加がみられ、若年層を中心とした梅毒に関する啓発上重要である。また、患者ばかりでなく、必要に応じてその性行為パートナーに対する教育、検査等を行っていくことが推奨される。

引用・参考 国立感染症研究所 IASR 梅毒2008～2014年

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/syphilis-m/syphilis-iasrtpc/5404-tpc420-j.html>

表：県内医療機関から届け出られた梅毒届出症例における推定感染原因・経路（複数回答あり）

届出数	男性					女性						
	性的接触 (性交)	性的接触 (経口)	性的接触 (同性間)	性的接触 (異性間)	性的接触 (不明)	届出数	性的接触 (性交)	性的接触 (経口)	性的接触 (同性間)	性的接触 (異性間)	性的接触 (不明)	
2006	11	3	1	1	4	1	2	1	0	0	1	0
2007	19	13	0	5	9	1	3	2	0	0	2	0
2008	19	10	8	1	9	4	7	1	1	0	3	1
2009	13	7	0	3	2	3	11	5	0	0	6	1
2010	28	21	1	7	12	2	11	8	1	0	5	0
2011	16	7	1	4	4	0	8	4	0	1	4	2
2012	25	15	2	4	13	4	5	2	1	0	5	0
2013	34	20	1	7	13	8	21	13	2	0	17	0
2014	51	23	3	10	23	4	31	17	3	0	20	1
2015	55	40	3	12	28	6	24	14	2	1	17	1
2016	92	50	19	17	43	18	49	31	5	0	32	5
2017	33	19	7	4	21	1	18	15	3	0	15	1

